

平成 23 年度  
横浜市立高等学校  
自己評価書

横浜市立横浜サイエンスフロンティア  
高等学校

## <学校情報>

1 課程・学科 全日制課程・理数科

2 学校長 栗原 峰夫（平成24年4月1日現在 在職1年目）

### 3 学校教育目標

- 1 広い視野、高い視点、多面的な見方を身につけさせ、ものごとに対する柔軟な思考力・解析力を培い、論理的頭脳を養う。
- 2 旺盛な探究力、豊かな創造力、世界に通じるコミュニケーション能力、自立力を培うことによって、よりよく生きる知恵を養う。
- 3 社会における己の使命を自覚し、積極的に社会に貢献しようとする志を養う。
- 4 人格を陶冶し、有為な社会の形成者としての品格を養う。
- 5 幅広い知識と教養を身につけ、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな心身を養う。

### 4 教育方針

驚きと感動による知の探究

《教育理念》

学問を広く深く学ぼうとする精神と態度を培いながら、生徒一人ひとりが持つ潜在的な独創性を引き出し、日本の将来を支える論理的な思考力と鋭敏な感性をはぐくみ、

先端的な科学の知識・技術、技能を活用して、世界で幅広く活躍する人間を育成する。

### 5 教職員数（平成23年12月1日現在）

学校長	<u>1</u>	非常勤講師	<u>6</u>	事務長	<u>1</u>	
副校長	<u>1</u>	校長代理	<u>1</u>	事務職員	<u>3</u>	
教諭	<u>65</u>	（男48、女17）	AET	<u>2</u>	技能職員	（PFI）
養護教諭	<u>2</u>				管理員	（PFI）

### 6 生徒在籍数（平成23年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	6	177	61	238
2	6	171	62	233
3	6	165	66	231
4				
合計	18	513	189	702

## 7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		70	58	82.9%
生徒	1年	238	229	96.2%
	2年	233	223	95.7%
	3年	231	170	73.6%
	4年			.%
	合計	772	680	88.1%
保護者		695	596	85.8%

## 8 自己評価実施日

教職員	平成24年2月23日～平成24年3月2日
生徒	平成24年2月23日～平成24年3月2日
保護者	平成24年2月23日～平成24年3月2日
地域	平成24年2月23日～平成24年3月2日

## 9 集計・分析期間

平成24年3月6日～平成24年3月23日

## 10 自己評価書の公表方法・時期

○集計結果と分析については、平成24年5月中旬以降本校ホームページで公表・報告予定

## <自己評価>

### 1 横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

「 特色ある高校づくりのための使命 」

- 様々な教育連携で先端科学技術の知識を習得し、世界で幅広く活躍する人材を育てる学校
- 理数系大学・学部を中心とした国公立及び難関私立大学進学を目指す学校
- スーパーサイエンススクール(SSH)としての取組を推進する学校

#### ◆平成23年度 第三者評価の指摘事項

指 摘 事 項	・なし
------------	-----

#### □特色ある学校づくりの推進状況

(関連アンケート番号：教職員、生徒、保護者) ※23年度はアンケート項目になし

取 組	・国公立及び難関私立大学への進学指導に努める。 ・学校全体でSSHとしての事業に取り組む
成 果	・120名の合格者を出せた。(国公立及び早慶上理) ・ysfFirstや海外研修を実施し、地学・生物学オリンピックでの金賞受賞者を輩出した。
課 題	・年次生徒について、2/3以上の合格実績を出すようにする。 ・継続的にysfFirstや海外研修を実施し、科学オリンピック等への参加、取組み体制を整える。
改善策	・進学に向けての雰囲気を作り、学習意欲を高める具体的な方策を考える。 ・地学・生物・化学をはじめ、科学オリンピックへの参加者を増やしていく。

## 2 教育活動の状況

### (1) 各教科等の状況

#### ◆ 平成23年度 第三者評価の指摘事項

指 摘 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の編成に向けては、バランスのとれた学力伸長を目指してほしい。</li> <li>・「家庭学習の習慣が身に付いている」について、生徒の肯定的評価の割合が50%を下回っていることが課題である。</li> </ul>
------------	--

#### □教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 1-2、生徒 8-9、保護者 21、地域なし)

取 組	・本校の教育理念に沿った教育課程の編成を行った。
成 果	・「そう思う」という回答が「ややそう思う」という回答を下回っている。
課 題	・定められた期間に科目選択できるようにする。また、一度決めてもすぐ変更したり、誤った情報で決めたりしないようにする必要がある。
改善策	・早い段階から自己進路実現を目指した科目選択ができるよう指導します。

#### □教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 3-8・24-25、生徒 10-12、保護者 19-20、地域なし)

取 組	・平常の授業はもちろん、土曜講習、夏期講習、冬期講習を含め生徒の能力、進路に応じた学力を育成する授業を行った。
成 果	・「そう思う」という回答が「ややそう思う」という回答を下回っている。
課 題	・もっと積極的に参加できる授業を行う必要がある。
改善策	・生徒ひとりひとりの学力が伸びるような授業を行います。

#### □特別活動・部活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 19-23・26、生徒 24-28、保護者 26-28、地域 1-3)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の指導・支援により、生徒会事務局を中心に各種委員会活動の活性化に取り組んだ。</li> <li>・部活動では、限られた条件の範囲内で積極的な取り組みを行った。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事に主体的に取り組めたと感じている生徒が多くみられた。</li> <li>・活動実績を残している部活動もある。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動を生徒による、より主体的取り組みへと支援する必要がある。</li> <li>・部活動の全体の運営に関して、今後も継続的に検討する必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間の緊密な連携の下、よりきめ細かく生徒の活動を見守りつつ、指導する。</li> <li>・部活動顧問会を軸に、課題の共有から、解決に向け取り組む。</li> </ul>

## (2) 生徒の状況

### ◆平成23年度 第三者評価の指摘事項

指 摘 事 項	・進路指導においては3年間を見通した取組みが望まれる。
---------	-----------------------------

#### □生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 9-14、生徒 15-18、保護者 23-25、地域なし)

取 組	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が個々にもつ背景を理解し、本校の生徒の本分を自覚させるために共通の認識をもって指導ができる体制の確立に取り組んだ。</li><li>・社会環境や生活様式の急激な変化に伴う生徒の心のケアに向け、全職員が共通理解のもとに迅速かつ丁寧に対応する体制の確立に取り組んだ。</li></ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・立ち番による遅刻指導、個々の行事による生活指導、問題行動をおこした時の個別指導によって生徒の自覚は高まりつつある。</li><li>・職員会議のときに、各年次から「生徒状況報告」をすることによって問題を抱えている生徒について全職員が理解することができた。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒自身に学校生活のルールを考えさせ、自律性を育てる必要がある。</li><li>・メンタルヘルスに関する問題に対応するため教育相談の充実を図る必要がある。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・常に全職員が生徒に声掛けをし、また、生徒自身による話し合いの場を設け現状の課題を考えさせ、改善に役立てる。</li><li>・トークルームを積極的に活用し、カウンセラー、養護教諭、その他関係職員との連携をより深めて対応にあたる。</li></ul>

#### □進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 15-17、生徒 13-14、保護者 22、地域なし)

取 組	<ul style="list-style-type: none"><li>・段階的に進路学習会や保護者会、外部講師の講演会等を行った。学力向上へむけ、土曜講習、夏期講習等組織的に行った。</li></ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・現役国公立進学率25.1%。難関私大合格者も25%に近い。在校生も様々な活動を通じて、将来への目的意識も高まっている。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・1期生の進路実績を分析し、今後に生かす必要がある。また、3年間を見通し、各分掌と連携したキャリア計画の作成が必要である。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・1期生の3年間を見直し、SLや海外研修を進路指導にも位置付け、進路実績も含めた「進路のてびき」を作成する。</li></ul>

## □保健指導及び環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員 18、生徒 20-21・23、保護者 10-11・18・29、地域 4-6)

取 組	<ul style="list-style-type: none"><li>・体調の自己管理に取り組む意識や実践力をもたせる指導に取り組んだ。</li><li>・校内美化の推進、ゴミの分別を徹底させる指導に取り組んだ。</li></ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・保健だよりの発行、保健室を訪れた生徒への個別指導によって健康への意識を高めることができた。</li><li>・ゴミの分別に対する意識を高めることができた。また、校内だけではなく地域の美化にも取り組むという姿勢を身につけさせることができた。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・体調管理のためにも、健康診断等の受診を徹底させることが必要である。</li><li>・ゴミの分別だけではなく、ゴミを減らす取り組みを進めることが必要である。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・保健室来室者に対してよりきめ細かい指導を行うとともに、担任、家庭との連携を強めていく。</li><li>・生徒の委員会活動を通じて、ゴミを減らす活動を推進していく。</li></ul>

### 3 学校経営の状況

#### (1) 学校の管理運営等の状況

##### ◆平成23年度 第三者評価の指摘事項

指 摘 事 項	・なし
------------	-----

##### □教育目標等の設定・実施状況

(関連アンケート番号：教職員 27—31、生徒 3、保護者 4、地域なし)

取 組	・教育理念、教育方針、教育目標について全職員が共通理解を深める機会を設けた。
成 果	・職員間での意見交換を行うことはできた。
課 題	・転任、新任を含め、全職員が共通理解を深めるには時間が足りない。
改善策	・管理職が方向性を明確に伝え、討議や意見交換の場を増やし、同じベクトルに従って生徒に対応する。

##### □組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 32—38・51、生徒なし、保護者、地域なし)

取 組	・情報を共有し、チーム力が発揮できる組織とする。 ・校内の研修・研究体制を整える。
成 果	・各分掌のチーム力で対応できている。 ・各教科における研究・研修の機会が増えている。
課 題	・情報の共有について、まだ足りない状況にある。 ・初任～3年次の研修の強化が必要である。
改善策	・分掌間での調整を前提に、全職員が情報の共有を常に心がける。 ・研修の機会を多く設ける。

##### □学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員 39—44、生徒 6、保護者 13-17、地域なし)

取 組	・公金及び準公金の執行について適切な管理を行うため、校内でのルールづくりを進めた。 ・横浜市関係部局等との連携を図り P F I による施設運営を円滑に進めた。
成 果	・準公金については、横浜市教育委員会のマニュアルに沿った執行に係る決定や、的確な支出確認を行った。 ・保護者による中間監査を設けるなど、監査体制の充実強化を図った。
課 題	・施設の機器備品類について、更新に係る中・長期的なスケジュール等を作成する必要がある。
改善策	・施設の機器や備品の状況を分析し、横浜市関係部局と連携して更新計画の作成に向けた検討を実施する。



## (2) 保護者・地域等との連携協力の状況

### ◆平成23年度 第三者評価の指摘事項

指 摘 事 項	・PTA活動を中心とする保護者との関係は良好であるが、地域との連携は十分とはいえない段階である。
------------	--

### □保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 45-47、生徒なし、保護者 5-6・12、地域 4-9)

取 組	・サイエンスに関わる活動(星を見る会)を通して、近隣の学校との連携活動を行っている。 ・学校全体での地域清掃、地域のお祭りへの挨拶などを行った。
成 果	・PTA活動はうまく連携がとれていると考えられるが、地域、特に町内会との連携については、十分とはいえない。
課 題	・地域との目に見える形の連携が必要である。そうした活動をとおして地域の理解・協力を得ることが課題である。
改善策	・サイエンスに関わる活動で近隣の小中学校との連携を、地域とは清掃活動・グラウンド開放などの活動で連携を深めていく。

### □危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 48-50、生徒 22、保護者 7-9、地域なし)

取 組	・年3回の避難訓練を行い、家事・地震時の避難経路の確認を行った。 ・津波警報発令時の、避難待機場所の確認の徹底を図った。 ・全生徒・全職員の3日分の防災備蓄品を準備した。 ・教職員による事故、不祥事防止のための研修会の実施。
成 果	・大地震時の「留め置き」に備え3日分の食料・水を完備した。また津波警報発令時の生徒の避難への意識高揚をはかることができた。
課 題	・生徒の「避難経路」の確認は年々改善されてはいるが、まだ反省すべき点があり、早期に徹底する必要がある。
改善策	・「避難経路図」の教室掲示だけではなく、廊下などへの掲示なども行う必要がある。

### □学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 52-54、生徒 4-5・7・19、保護者 3・6・20、地域 6)

取 組	・学校ホームページ、メールマガジンを活用し、早急な伝達を行った。 ・年次ごとに年次通信等で最新の情報を提供している。
成 果	・23年度も保護者の90%近くが学校説明、広報活動について本校は力を入れていると回答している。
課 題	・地域との連携ともつながるが、地域に対しての本校の情報公開を明確にすべきである。
改善策	・地域との情報交換などの機会を定期的に行っていく。